

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	町田市子ども発達センター		
○保護者評価実施期間	2025年10月10日		～ 2025年10月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	133	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	2025年12月8日		～ 2025年12月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○訪問先施設評価実施期間	2025年10月10日		～ 2025年10月24日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	65	(回答者数) 27
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・複数の職種に渡る専門職が在籍しており、多職種の連携がとやすい状態です。	・定例会やチャットでのやりとりを通して、訪問支援員全体で日常的に訪問支援についての情報交換を行っています。	・コミュニケーションを密にとることができるよう、引き続き定例会等の定期的な打ち合わせでの情報交換を行うほか、日常的な情報共有の方法についても見直しを進めていきます。
2	・保護者や訪問先施設と対面以外の手段でもコミュニケーションを図ったり、情報のやりとりを行うことができます。	・オンラインでのやりとりや「成長療育支援システムHUG」などを活用し、保護者や訪問先施設等がそれぞれのタイミングに合わせてやりとりを行いやすい方法を用意しています。	・様々なやりとりの方法についての啓発を進めると共に、「成長療育支援システムHUG」等の利用については、今後も利用方法をわかりやすくお伝えしていきます。
3	・定期的な打ち合わせの中で、様々な視点から検討を行うことができます。	・定例会の中で事例について取り上げる機会を持ち、他の訪問支援員との意見交換を行うことで、より幅広い視点を持った支援に繋がっています。	・引き続き定例会等の定期的な打ち合わせを通して様々な視点からの検討を行っていきます。また、職員研修等を通して訪問支援員の資質の向上を図り、お子さんの状況に合わせた具体的な方法の支援を提案できるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員間で共有できるツールや教員教材、サンプル集の数が少ないことです。	・様々な専門職の訪問支援員が在籍しているため、個々の専門性に応じたツールを使用することが多くあります。	・教材、用具等については、共有のものの購入を進め、どの訪問支援員からも一定の質が担保された提案ができるようにしていきます。また、共通のツールについては、現在準備を進めています。
2	担当支援員によってサービス内容に偏りが出る場合があります。	経験値や専門性が支援員ごとで異なるために生じています。	研修の更なる充実を図っていきます。また、多職種による支援や、時には固定の担当者だけでなく、課題に合わせた専門支援員が訪問を交代することも行うことを2025年度より試行しています。2026年度は本格的に取り組んでいきます。